

平成16年度 山形市教育研究所 情報教育推進に関する調査研究 Webサーバを活用した効果的な情報発信に向けて

情報教育推進調査研究 研究員

片 桐 忠 彦（山形市立第五小学校）

1 はじめに

本市教育情報ネットワークシステムが整備され、市内各小・中学校がホームページを作成し、地域や保護者向けに情報を発信するようになった。この Web サーバは、2つの接続環境を持つ。1つは広く全世界からアクセス可能なインターネット上のサーバ、もう1つは市内小・中学校だけがアクセス可能なイントラネット（以下イントラと略）上のサーバである。したがってイントラ上のホームページは、閲覧者が児童・生徒並びに学校関係者に限定された閉じた世界を形成する。この両者の違いは、ホームページのコンテンツのあり方に大きく影響することになる。そこで今回は、イントラ上のホームページの可能性を探ってみた。

2 事 例

(1) 学習のまとめとして

【デジタル学校の樹木ホームページ】

総合学習の成果をデジタルデータにして残すことが多い。以前は思い出を残す意味合いが強かったが、最近は情報として発信するための準備段階として極めて重要なことと感じている。本事例は、学校内の樹木を調べていくうちに、子ども達の中に「後輩達にもっと樹木のことを知ってほしい」という願いと、それを手軽に調べられる便利な形にして残したいという思いから作られたホームページである。

データが蓄積されて、それが便利に活用するシステムはこれまでほとんどなかったといえる。ホームページはその役割を果たす可能性を大いに秘めている。

(2) 行事などを紹介する

【学校のホームページを作ろう】

閉じた限られた閲覧者という特性から、多少の体裁の悪さは目を瞑っても、児童の手で作らせてみたいと考えた。新しく更新された学校のシステムには、自分が作った文書を手軽にホームページとして出力したり、地図を作ったり、グラフを作ったりできるため、結果的に子ども達のホームページの方がコンテンツが豊富になっていった。

(3) 作品をデジタルデータにして残す

【校内書き初め展】

おそらく市内全ての小学校で取り組んでいる

と思われる校内書き初め展。その作品も子どもに返してしまえばあとは家庭での保存となる。最近図工や家庭科などの作品をデジタルデータにして残す先生方が増えてきている。そのデータを比較的気軽に掲載できるのも、イントラならではの使い方と思われる。もし全小学校で書き初め展を実施すれば、市内一円の作品を目にすることができる。そこから交流の糸口となる可能性も見えてくる。

(4) 中学校でのホームページ運用

【スクールイントラパックを利用した運用】

中学校と一部小学校に導入されているスクールイントラパックを利用すれば、公開するコンテンツを選択するだけで、インターネットとイントラ双方のホームページコンテンツを切り分けて運用することができる。



図 第五中学校の例

3 おわりに

実践して課題が見えてきた。第一に、イントラ上ホームページのガイドライン（著作権・プライバシーの面から）をもう一度見直す必要があること。第二に、一方向の情報発信から双方向の交流に至るまでのハードルはまだ高く、それは先生個々の活用意識に任されている面が大きいこと。第三にネットワーク取扱責任者や指導者の負担が多少なりとも増えてしまうこと。

しかし、実際子ども達の手に乗せてみると、子ども達がいきいきとして活動に取り組んでいたことだけがとても印象に残った。デジタルデータとして作品を残すことは、当事者の子どもだけに限らず多くの閲覧者にとって意義あることである。次の学年がいつでも参照できる資料を学校として自由に蓄積できるのもホームページならではの利点である。新しい可能性を求め、より効果的な Web サーバの活用法をこれからも模索していきたい。